

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状と課題から次の3点を重点課題とした。

- (1) 授業力向上のための取組の推進<学習活動>
- (2) 生徒の自主的・実践的な態度の育成<学校生活>
- (3) 生徒とつながるPTA活動の取組<その他（PTA活動）>

<学習活動>

- ・数値目標は達成したが、互見授業の事後研修の内容を各々の教員が自分の授業に生かし、改善を図ることができたかを検証できなかったこと、外部講師による研修の実施が遅れ、学んだことを授業に活用する時間を十分確保することができなかったことから、B評価とした。

<学校生活>

- ・「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトをより実施しやすくするための環境設定に取り組み、生徒会主体の活動として定着してきたが、一つ目の目標を達成できなかったため、B評価とした。

<その他（PTA活動）>

- ・生徒会と連携して、PTA役員と生徒との懇談会を目標回数だった2回実施し、生徒・保護者双方の思いや考えを伝え合う場になったため、A評価とした。

学校評議員会では、学校運営やアクションプランの取り組み状況について、専門的な立場からのご意見や感想をいただくとともに、今後に向けての建設的な方策について助言をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

本校では、「卒業後の就職を目指す意欲の高い生徒の確保」、「卒業予定者全員の一般企業等への就職と職場定着」を重要な役割として捉え、取り組んできた。専門家や地域の人材を生かした特色ある学校づくりをより推進し、外部へアピールすることが入学者確保につながると考える。また、生徒の自主的、主体的な態度の育成を図りながら、社会に貢献し、より自分らしく生活できる力を高められるよう、保護者とも連携を図りながら、学校教育活動全体で推進していきたい。

<学習活動の取組>

- ・今年度互見授業で得た有効な手立てについて教職員で共有し、さらに「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善に取り組むと同時に、生徒へのアンケートを実施することにより、生徒の実感につながっているのかも検証していく必要がある。また、専門家の助言や支援を受けて引き続きICT機器の使用や活用場面等を研修し、生徒がより意欲的、効果的に学べるような授業づくりを進める必要がある。

<学校生活の取組>

- ・「目指せ！ワンダフル☆School」の取組は、社会で求められる「自ら考え、発信する力」を養う上で有効であるとの意見をいただいた。環境が整い、生徒会を中心に活動が定着してきたので、本校の特色となる活動として、教職員間で取組について共通理解を図り、より負担感の少ない形を模索しながら継続して実施していきたいと考える。

<その他（PTA活動）の取組>

- ・生徒や保護者から懇談会のテーマを募集したり、進行をPTA役員や生徒が行ったりするなど、よりよい懇談会のもち方を工夫し、全保護者と全校生徒が参加できる意見交換の場が設定できるよう方策を探っていく必要がある。

8 学校アクションプラン

令和6年度アクションプラン — 1 —			
重点項目	学習活動		
重点課題	主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 本校の生徒の特性として、学習の取組や習得に時間が掛かる、言葉による説明だけでは理解が難しい、抽象的な事象をイメージしにくいといった学習上の困難があり、授業では受け身になりがちである。 1人1台端末の配備でICT環境が整い、生徒が各学習活動でICTを活用して自ら考え、生徒同士で意欲的に学ぶ場面が多くみられるようになった。 昨年度行った、教職員間での互見授業後の意見交換では多くの授業改善のアイデアが出た。しかし、それを生かした授業改善後の研修は実施に至らなかったため、生徒の主体的で対話的な学びを促す視点での授業力向上につながっているか検証する必要がある。 		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① 互見授業による授業研究の実施 2回以上</td> <td>② 外部講師による研修会の実施 2回以上</td> </tr> </table>	① 互見授業による授業研究の実施 2回以上	② 外部講師による研修会の実施 2回以上
① 互見授業による授業研究の実施 2回以上	② 外部講師による研修会の実施 2回以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 互見授業及び授業研究、事後研究を年間2回以上実施する。 外部講師を活用した研修会を年間2回以上実施し、新たな気付きを得たり、授業改善につながるよりよい方策について学んだりする機会を設ける。 校内研修会での情報交換等を通して、発問や授業展開、教材、新たに導入したVR教材を含めたICTの効果的な利活用等を再考し、生徒の実態に即した、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を図る。 ICT教育推進委員会の機能の充実を図り、ICT教育の環境整備を進めるとともに、学年や分掌と協力して情報モラルの向上を図るなど、ICTを安全に使用できる環境づくりを進める。 		
達成度	<table border="1"> <tr> <td>授業研究（互見） 1学期：2回 2学期：4回 合計：6回実施</td> <td>外部講師による研修会 ① ICTミニ講座（4回） ② VRゴーグルを用いた効果的な指導及び今後の活用方法について（1回） 合計 5回</td> </tr> </table>	授業研究（互見） 1学期：2回 2学期：4回 合計：6回実施	外部講師による研修会 ① ICTミニ講座（4回） ② VRゴーグルを用いた効果的な指導及び今後の活用方法について（1回） 合計 5回
授業研究（互見） 1学期：2回 2学期：4回 合計：6回実施	外部講師による研修会 ① ICTミニ講座（4回） ② VRゴーグルを用いた効果的な指導及び今後の活用方法について（1回） 合計 5回		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びの視点での授業改善のための校内研修会を6回行った。その他、外部講師を招いた研修会を5回行った。 1学期と2学期に各教科の公開授業を6回行い、互見した。また、1学期の公開授業の前後に授業研究を行った。2学期の互見授業では、全ての教員が授業を見学し、良い点や改善点などの意見を出し合った。それを授業改善シートにまとめ、職員間で共有した。 本校で研修していた富山大学教職大学院生に、タブレット端末の基本的な使い方から新アプリ”Canva”の活用法など本校教職員の要望に合わせて1回30分程度のミニ講座を4回開催してもらうことができた。 VR教材と360度カメラの活用に関する研修では、有効な活用方法や活用場面について話し合い、本校の実態により即した研修となるよう工夫した。 		
評 価	<table border="1"> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 達成目標の回数は①、②とも達成しているが、事後研修の内容を各々の教員が自分の授業に生かし、改善を図ることができたかは検証できなかったこと、外部講師による研修の実施が遅れ、学んだことを授業に活用する時間を十分確保することができなかったことから、評価をBとした。 1学期に互見授業を行い、事後研修で出した意見を生かして授業改善を行った。2学期の互見授業では、生徒がより積極的に意見を交換したり、調べたりすることができるような授業改善につなげることができた。 360度カメラの活用方法について話し合いはできたが、活用に至っていない。今後、専門家の指導を受け、実際にカメラを使いながら活用場面を模索し、それが生徒の主体的、対話的で深い学びにつながればよいと思う。 </td> </tr> </table>	B	<ul style="list-style-type: none"> 達成目標の回数は①、②とも達成しているが、事後研修の内容を各々の教員が自分の授業に生かし、改善を図ることができたかは検証できなかったこと、外部講師による研修の実施が遅れ、学んだことを授業に活用する時間を十分確保することができなかったことから、評価をBとした。 1学期に互見授業を行い、事後研修で出した意見を生かして授業改善を行った。2学期の互見授業では、生徒がより積極的に意見を交換したり、調べたりすることができるような授業改善につなげることができた。 360度カメラの活用方法について話し合いはできたが、活用に至っていない。今後、専門家の指導を受け、実際にカメラを使いながら活用場面を模索し、それが生徒の主体的、対話的で深い学びにつながればよいと思う。
B	<ul style="list-style-type: none"> 達成目標の回数は①、②とも達成しているが、事後研修の内容を各々の教員が自分の授業に生かし、改善を図ることができたかは検証できなかったこと、外部講師による研修の実施が遅れ、学んだことを授業に活用する時間を十分確保することができなかったことから、評価をBとした。 1学期に互見授業を行い、事後研修で出した意見を生かして授業改善を行った。2学期の互見授業では、生徒がより積極的に意見を交換したり、調べたりすることができるような授業改善につなげることができた。 360度カメラの活用方法について話し合いはできたが、活用に至っていない。今後、専門家の指導を受け、実際にカメラを使いながら活用場面を模索し、それが生徒の主体的、対話的で深い学びにつながればよいと思う。 		
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 有効な手立てを、互見授業では授業に結び付けられたことがよかった。検証はできていないが、次年度への課題と分かったことが成果だと考える。 互見授業で教師からの意見は出てきているが、生徒はどう思っているのか。生徒へのアンケートがあるとよいのではないかと。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 有効な手立てについてはまとめることはできたが、その後の検証ができていない。次年度は有効な手立てを取り入れた授業の実践、検証を行うとともに、VR教材と360度カメラの利活用も推進したい。 		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度アクションプラン —2—

重点項目	学校生活	
重点課題	生徒の自主的・実践的な態度の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトを開始し、生徒会執行部を中心に取組を進めているが、主体的に取り組んでいる生徒はそれほど多くなく、教職員の働き掛けが必要である。 ・昨今、企業では社員が自らの気付きから業務を改善する取組が推進されている。卒業後一般企業等への就労を目指す生徒たちにとって、学校生活の中で気付きの視点を持ち、計画を立てて実践する経験を積むことは将来の社会生活にも活かされるものとする。 ・昨年度は自分自身を高めるための実践が多かった一方、学校生活の向上や地域交流に目を向けた実践は少なかった。 ・「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトについて教職員全体に周知することができず、教職員の意識に差がある。 	
達成目標	①「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトの実践 <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒が3件以上、企画 ・全校生徒が3件以上、自分の提案または他者の提案に賛同して実践 	②生徒の自主的・実践的な態度の育成に関する教職員研修の実施 2回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心に、「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトの取組を再考する。 ・学校行事（体育大会、文化祭等）や地域の行事で、生徒が地域の方々と一緒に取り組める企画や運営ができるよう、事前学習や準備の進め方等を工夫する。 ・社会自立への主体的な態度を養い、よりよく生きる力を高めるように、ウェルビーイングの視点で学校をよりよくするアイデアを出したり、社会参加・社会貢献をしたりする機会を設定する。 ・積極的に地域に開かれた学校としての推進を図り、生徒の実践の場を広げるとともに、広く地域の方々に学校行事等、地域との交流の機会等を含めた情報を発信する。 ・生徒の実践に対してより効果的な支援ができるように、生徒の自主的・実践的な態度の育成についての教職員研修を実施する。 	
達成度	プロジェクトシート提出数 69件 3件以上の企画をした生徒 75% 3件以上の実践をした生徒 85%	校内研修 5回 外部講師を招いての研修 2回 計 7回
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の生徒総会で「目指せ！ワンダフル☆School」について執行部が全校生徒に説明し、クラス単位で話し合いの場を設けた。その後も学期末や行事等の際に呼び掛け、身近な取組となるようにした。 ・「目指せ！ワンダフル☆School」掲示板を設置し、進行中の取組が分かるよう掲示したり、プロジェクトへの参加を募集したりするなど生徒に注目してもらうような工夫を行い、実施後には教職員や友達からのコメントを記入してもらった用紙を玄関に掲示した。 ・「目指せ！ワンダフル☆School」のプロジェクトの掲示だけでなく、学校生活に関する問題についても提起し、生徒たちが自由に書き込めるようにしたことで、生徒たち自身で解決策を導き出し、実践につながるケースがあった。 ・各学期末に執行部が良いプロジェクトを選んで表彰した。選出理由を伝えたり、表彰されたりすることで次回への意欲につながるようにした。 ・担当する教職員が定期的に集まり、有効な言葉掛けや環境設定について話し合いを重ねた。また、校外から講師を招いて会社での業務改善の取組について話を聞いたり、生徒のやる気を引き出すコミュニケーションの取り方について研修を行ったりした。 	
評 価	B 全校生徒が3件以上の企画や実践という目標には届かなかったためBとした。3年生ではほぼ100%、2年生では79%、1年生では65%の生徒が取組に参加できた。経験を重ねていくことで主体的に企画、実践する生徒の割合が増えていることが分かった。「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトをより実施しやすくするための環境設定に取り組んだ。掲示板を設置したことで、取組への参加を呼び掛けたり、問題提起への意見を書き込んでもらったりするなど、多くの生徒が活用することができた。また、教職員からの言葉掛けやアイデアからプロジェクトに発展していく事も多く見られるようになってきたので、今後も継続して取り組みたいと考える。	
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・経験を重ねることで、学年の成長の違いが見える。上級生の姿を見て下級生が学んでいるのであろう。学年ごとに達成目標を設定してはどうか。 ・会社では、要望から改善へと目標管理が行われるので、今回の取組は社会へ出てからも生かすことができると思う。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に考え、行動できる校風を育むため、教職員間で引き続き共通理解を図り、継続して「目指せ！ワンダフル☆School」に取り組む。 ・企画、実施だけでなく、振り返り、改善し、よりよい提案ができるように支援する。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度アクションプラン — 3 —

重点項目	その他（PTA活動）	
重点課題	生徒とつながるPTA活動の取組	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員・委員会を年3回実施しているが、教職員が主となってPTA事業の計画や準備等を行っているため、保護者同士の情報交換の場としてはまだまだ十分とは言えない。 ・県高等学校PTA連合会「イレブン・セブン運動」の改称等、生徒と保護者が意見交換しながら検討すべき課題がある。 ・思春期にある生徒とのコミュニケーションに悩む家庭もあり、学校生活についてもっと知りたいという要望が少なからずある。 	
達成目標	PTA役員と生徒との懇談会の実施	
	2回	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と連携し、PTA役員と生徒との懇談会を実施する。 ・それぞれのニーズに合った内容になるように、懇談会前にアンケート等により保護者、生徒双方から話題にしたいことを聞き取る。 ・懇談会の内容について、HPやPTAだより等で発信し、全ての保護者、教職員と情報を共有する。 	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンに関するアンケートを生徒、保護者、教職員に実施 ・「イレブン・セブン運動」の仮称に関する本校案を提出 ・PTA役員と生徒との懇談会を2回実施 	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者、教職員に向けた「スマートフォン等の利用に関するアンケート」を実施し、それぞれの立場で現状を把握するため集計結果を配付したり、生徒集会で周知したりすることで共通理解を図った。 (アンケート配付：7/19、集計結果の配付：9/24、生徒集会：12/13) ・県高等学校PTA連合会「イレブン・セブン運動」の改称に関するアンケートを生徒、保護者、教職員に実施し、本校案として「Mirai 運動」を選び、提出した。 (新名称は「スマート・スマホ運動」に決定した。) ・PTA役員と生徒との懇談会を2回(10/17、2/13)実施し、1回目には「スマートフォン等の利用に関するアンケート」の結果を踏まえ、情報端末の使い方について話し合った。生徒会からはスマートフォンは自分たちの生活にとって必要不可欠なものであるため、その使用については各自で工夫をしていること、保護者からはスマートフォン以外の趣味を見つけ、視野を広げてほしいなどの意見が出された。2回目では生徒会で決めた本校のネットルールを紹介するとともに、前回PTAから提案のあった、生徒への軽食等の購買について話し合う予定である。 	
評 価	A	<p>昨年度から実施を試みていた「PTA役員と生徒との懇談会」を、今年度正式に2回実施することができた。PTAや生徒全員に情報端末に関するアンケート調査を実施し、互いを取り巻く環境も考慮しながら、日頃伝えきれていない生徒・保護者双方の思いや考えを伝え合う場になったのではないかと考える。</p>
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAからの発案で生徒会執行部との懇談会を実施したが、生徒たちの自主性が感じられる発案や行動が多く見られ、また学校生活で起きた問題を自ら解決できる力が身に付いており、主体的に取り組む生徒を育てる本校の実践がきている。 ・生徒会が中心となり情報端末についての問題意識をもち、使い方を考えたり、学習したりできる機会があり、大変よい。就労生活にもつながっていければなおよい。 	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は教職員が中心となって懇談のテーマを設定したため、教職員が懇談を進める形になってしまった。今後は生徒や保護者からテーマを募集したり、PTA会長や生徒会長が会を進行したりするなど、よりよい懇談会の在り方を工夫するとともに、PTA役員だけでなく、全保護者が参加できる意見交換の場が設定できるようにしていきたい。 	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)